

世界大学学術ランキング2020について

大学ランキングで有名なものに「QS世界大学ランキング」(Quacquarelli Symonds : QS)、「THE世界大学ランキング」(The Times Higher Education - Thomson Reuter : THE-TR)、「世界大学学術ランキング」(Academic Ranking of World Universities : ARWU)があります。この中で、世界大学学術ランキングは上海交通大学(中国)の高等教育研究所・世界一流大学研究センターが毎年発表している科学研究の業績を評価している大学ランキングです。2007

年からは分野別ランキングを公表され始め、2017年からは歯学分野(Dentistry & Oral Sciences)が公表されています。新潟大学歯学部は2020年度版ランキングで、2018年度版(世界38位)に続いて、世界39位(国内3位)となりました。(http://www.shanghairanking.com/Shanghairanking-Subject-Rankings/dentistry-oral-sciences.html)。さらなる研究活動の活性化のため、Elsevier社の協力を得て、本歯学部の研究の質の分析を行っています。

前川准教授(高度口腔機能教育研究センター)の文部科学大臣表彰について

歯学部の前川知樹准教授(研究推進機構・研究教授)が令和2年度科学技術分野の文部科学大臣表彰「若手科学者賞」(応募者数353名、授賞者数97名)を受賞しました(https://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/mext_00187.html)。「科学技術分野の文部科学大臣表彰」は、文部科学省が科学技術に関する研究開発、理解増進等において顕著な成果を収めた者を顕彰するもので、

若手科学者賞は、萌芽的な研究、独創的視点に立った研究等、高度な研究開発能力を示す顕著な研究業績をあげた40歳未満の若手研究者が対象となるものです。若手科学者賞の受賞は本学において前川准教授が初となりました。なお、詳細については、前川准教授の受賞報告を参照してください。

講義室の新設について

旧歯科診療棟(旧歯学部附属病院)の改修工事が行われ、令和2年3月末に「新潟大学ライフイノベーションハブ」が竣工しました。前号で報告

したとおり、旧F、H棟は旭町部局、全学センターの共通センターとして改修され、旧G棟は取り壊され、駐車場として整備されました。歯学部は旧

歯学部附属病院会議室（2階）と旧保存科診療室（3階）の跡地に講義室2室を新設しました。2階の講義室は通常の講義仕様として、また3階の講義室は「インテリジェンス・アクティブラーニングクラスルーム（通称：iALC1）」として整備されました。このiALC1にはICT設備や多目的に使用できる什器類を導入し、アクティブラーニング、講義収録や国内外機関との遠隔教育、自習スペースなど幅広く使用されることとなっています。なお、この講義室の新設に伴い、E棟1階に設置していたマルチディスカッションルームは名称をiALC2に変更しました。



3階iALC1

新潟大学歯学部プロモーションビデオの公開について

本学部では海外歯科大学・歯学部、関係機関との海外ネットワークづくりを行っており、また学生レベルでの国際交流に力を入れています。この度、関係各位の協力を得て、歯学部プロモーションビデオ（英語版）を作成し、YouTube上に公

開しました（<https://www.youtube.com/watch?v=6gwHpo9bHYw>）。作成したビデオは、主に日本への留学を希望する海外の歯学部学生や研究者に本学部の教育・臨床・研究の特色を紹介する内容となっています。

デジタルデンティストリー機器の導入について

歯学部が獲得している教育に関する機能強化促進経費によって、医歯学総合病院歯科外来の臨床実習スペースにPrimescan（Dentsply Sirona：<https://www.dentsplysirona.com/ja-jp/explore/cerec/primescan.html>）一式が設置されました。従来、印象採得（削った歯の型採り）や作業模型（削った歯の形を石膏で再現する）、修復・補綴装置（金属やセラミック製の被せ物や詰め物）の製作は歯科医師や歯科衛生士、

歯科技工士が手作業で行っていましたが、近年のデジタル技術の進歩により、これらの作業の大部分をデジタル機器に任せることが可能となり、スキャナーやコンピュータを用いて行われるようになっていきます。

この機器を用いると、口腔内スキャナーで撮影した患者さんの口腔内の状況がコンピュータ上にリアルタイムで3D画像として再現・構築され、患者さんのかみ合わせの特徴に合わせてデザイン

した被せ物や詰め物が金属やセラミックの塊から自動で削り出されます。これらのデジタル機器を用いた歯学や歯科治療はデジタルデンティストリーシステムとよばれ、一般的な治療法としての地位を確立しつつあります。またこのデジタル・テクノロジーの進歩は著しく、デジタルデンティストリーについては歯科医師国家試験にも出題されるようになってきています。そのため、これらの機器の知識や操作法は歯科医師、歯科衛生士に必要不可欠なものと考えられます。今回、導入したシステムはすべての作業をチェアサイドで行う

ことができ、また精度の高い被せ物や詰め物を短時間で作成することができるという特徴を持っており、数あるデジタルデンティストリーシステムのなかでもトップクラスに相当します。現在、臨床実習を行う学生のみならず、病院歯科に勤務する歯科医師、歯科衛生士も歯科診療で活用できるよう準備を進めています。またハードの整備に加え、機器を活用するための教育内容を見直し、この分野の教育のさらなる充実を図りたいと考えています。（歯科臨床教育学 教授 藤井規孝）



口腔内スキャナー（Primescan）



専用ミリングマシン（Primemill：右）とシンタリングファーンズ（SpeedFire：左）

高圧蒸気滅菌器導入について

この度、E棟1階に高圧蒸気滅菌装置（三浦工業、RK-030EH）を設置しました。高圧蒸気滅菌装置は、主に各分野で所有する実験器具や実験動物飼育器材を滅菌するためのものです。この装置の大きな特徴は、両扉式になっており、汚染領域と清潔領域が区別できることにあります。また、121度の標準滅菌以外にも135度の高温滅菌が可能

であり、必要な条件でしっかりと滅菌することができます。

感染症が大きな問題となっている昨今、このように大型の滅菌装置が歯学部導入されたことは大変有意義なことであり、皆様には是非有効活用していただきたいと思います。

（口腔生化学 教授 照沼美穂）



高圧蒸気滅菌装置RK-030EH（汚染領域側）



清潔領域側の様子

WEBオープンキャンパスの開催について

令和2年8月16日（日）、17日（月）の2日間にわたり、WEBオープンキャンパスが開催されました。今年のオープンキャンパスは、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、新潟大学全体として対面での実施は中止となり、初めてオンラインで実施することになりました。

今回のWEBオープンキャンパスで歯学部が用意したプログラムは、次のとおりです。

- ・ 学部長挨拶
- ・ 学部全体説明
- ・ 入試概要説明
- ・ オンライン模擬講義
- ・ バーチャルスライドシステム体験
- ・ オンライン校舎内見学ツアー
- ・ 歯学部実習風景動画
- ・ 学生とのオンライン座談会

学部長挨拶は、資料閲覧の形でオープンキャン

パス特設サイトに掲載しました。学部全体説明は小野和宏学務委員長が、入試概要説明は佐伯万騎男入試実施委員長がそれぞれ説明動画を用意してくださり、参加申込者のみへ限定公開をしました。

オンライン模擬講義は8名の教員に講義動画を作成していただき、公開しました。参加者が自由に閲覧することができるというオンラインの利点を踏まえ、講義の時間を短くして、動画の種類を増やすなどの工夫をして実施しました。掲載した講義動画の表題は次のとおりです。

- ・ 食べることの大切さを知る（井上誠教授）
- ・ 口と全身の病気のかかわり（多部田康一教授）
- ・ 再生医療のはなし（泉健次教授）
- ・ 介護予防とお口のケア（大内章嗣教授）
- ・ お口の健康で元気で長生き（葭原明弘教授）
- ・ 感覚とは？（岡本圭一郎准教授）
- ・ 歯科における私たちの仕事（長澤麻沙子助教）

・歯ならび、噛み合わせを直す矯正歯科治療とは？（丹原惇助教）

バーチャルスライドシステム体験は、田沼順一教授の全面的な協力のもと、組織学や病理学の実習で活用しているバーチャルスライドシステムの一部を参加者に公開して、実際に病理組織の標本を観察できるよう準備しました。オンラインでは体験型プログラムを用意するのが難しかったため、参加者が自らシステムを操作できる本プログラムは貴重なものとなったと思います。

オンライン校舎内見学ツアーは、歯学部校舎内の実習室等を、360度カメラを用いて撮影し、3Dオブジェクト掲載サイトを使用して限定公開しました。また、実習室が実際にどのように使用されているかは写真だけではわからないため、実習風景の動画を作成し、掲載しました。

学生とのオンライン座談会では、WEB会議システムZoomを用いて、参加者を学部在生と一

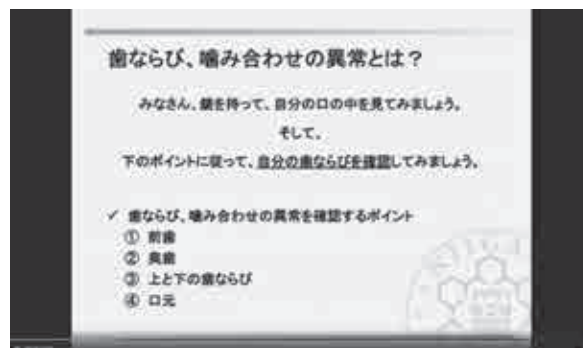
緒にミーティングに招待し、参加者からの質問に学生が答えるという形で実施しました。座談会中は上級生が主に進行を担い、参加者から多くの質問を引き出してくれたため、活発で有意義な座談会となりました。

参加者からは、限られたプログラムの中で、歯学部での学習内容や学生生活、校舎内設備などの情報を得ることができてよかったという声があり、おおむね好評をいただけたと考えています。また、遠方に在住して対面での参加が難しい方からは、負担なく参加できるためよかったという声も聞かれるなど、オンラインでの実施の利点も垣間見ることができました。一方で「実際に行くことができずに残念」「対面にはかなわない」などの意見も多数見られたため、来年度は対面でのオープンキャンパスが開催できることを強く願っています。

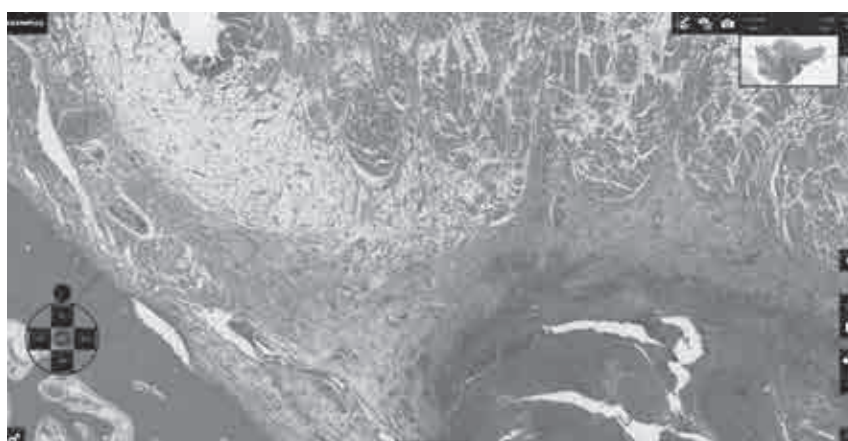
（学務係 櫻井拓仁）



オンライン校舎内見学ツアー



オンライン模擬講義



バーチャルスライド体験

令和2年度補正予算による 遠隔講義システムの導入について

政府は、令和2年度補正予算の中で、新型コロナウイルスの感染拡大を受け、大学等において感染している状況下で、学生が「いつでも・どこでも・誰でも」学習できるよう、デジタル技術を活用した遠隔授業等を積極的に活用できる環境の整備を進めることにしています。新潟大学歯学部では、学生が複数の教室に分散してリアルタイムで講義を受講できる遠隔講義システムを補助申請・採択され、この度、導入されました。講義送信装置をiALC1、講堂、小会議室2に設置し、受信装置を

第1～7講義室に設置しました。iALC1、講堂からは最大9拠点へ、小会議室2からは最大3拠点へ講義配信が可能となるシステムです。また講義収録システムも備えており、遠隔講義中の録画も可能となっています。

このシステムの整備により、3密を回避した対面型講義が可能となり、Zoom等による非対面型講義と併用することで、高い学修効果が得られると考えています。



4月に完成した講義室「インテリジェンス・アクティブラーニングクラスルーム（通称：iALC1）」からの配信テストの様子



iALC、講堂に設置した送信用モニター画面。配信先の接続状態を確認することができる。